特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第 62 回）

議事録

日　時　令和 6 年 10 月 11 日（金）13:00～16:30

場　所　名古屋市公館　レセプションホール

出席者　構成員

瀬口　哲夫	名古屋市立大学名誉教授	座長
丸山　　宏	名城大学名誉教授	副座長
赤羽　一郎	元名古屋市文化財調査委員会委員長・元愛知淑徳大学非常勤講師	
小濵　芳朗	名古屋市立大学名誉教授	
麓　　和善	名古屋工業大学名誉教授	
三浦　正幸	広島大学名誉教授	
藤井　譲治	京都大学名誉教授	

オブザーバー

渋谷　啓一	文化庁文化財第二課主任文化財調査官
平澤　　毅	文化庁文化財第二課主任文化財調査官
岡田　邦裕	愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室室長補佐

事務局

観光文化交流局名古屋城総合事務所
教育委員会生涯学習部文化財保護課
緑政土木局緑地事業課

報　告　(1) 水堀関連遺構の発掘調査成果について（辰之口発掘調査）

議　題　(1) 水堀の活用（舟運）について（船着場の設計）
(2) 植栽管理計画ついて
(3) 二之丸庭園の発掘調査について
(4) 重要文化財建造物等保存活用計画について
（西北隅櫓におけるボーリング調査）
(5) 園内サイン改修について
(6) 名古屋城外掘周辺の園路等の改修について

配布資料　特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第62回）資料

事務局	1　開会 2　あいさつ 本来であれば、名古屋総合事務所長より開催のご挨拶を申し上げるところですが、大変申し訳ございません。本日は議会の案件で不在のため、代わりに挨拶を読み上げたいと思います。 本日は、ご多用の中、第62回特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日議題とするのは、6件あります。議題（1）では水堀の活用（舟運）について、議題（2）では植栽管理計画について、議題（3）では二之丸庭園の発掘調査について、議題（4）では重要文化財建造物等保存活用計画について、議題（5）では園内サイン改修について、議題（6）では名古屋城外掘周辺の園路等の改修について、ご意見をいただきたいと思います。その他、報告として、水堀関連遺構の発掘調査成果について、辰之口発掘調査区に関するご報告をさせていただきます。大変議題の多いタイトなスケジュールですが、限られた時間ですが、よろしくお願いいたします。 3　構成員、オブザーバー、事務局の紹介 4　本日の会議の内容 資料の確認をします。会議次第、裏面に出席者名簿となっています。座席表、その次に議題の位置図です。その後に事業予定についてのA3が1枚で、その後に資料1から7までとなっています。そのほか、構成員、オブザーバーの皆さま方には参考資料として、現状変更許可申請の案件をまとめた資料をお配りしています。また議題（1）と議題（5）の参考資料も配布しています。 本日の進行ですが、資料の番号順に、報告議題を先にご報告し、その後議事に進みたいと思います。よろしくお願いいたします。 それでは、早速ですが報告第（1）として水堀関連遺構の発掘調査成果について、ご報告します。
	5　報告 （1）水堀関連遺構の発掘調査成果について（辰之口発掘調査）
事務局	資料が2枚あります。2枚目に写真、図面を掲載していますので、あわせてご覧ください。 6月上旬から9月上旬に実施した、辰之口南波渡場の発掘調査のうち辰之口について調査成果概要をご報告します。辰之口水道大樋は水堀の排水施設で東端部分について、今後舟運事業に伴い船着場の設置を予定しています。金城温古録には、「樋の両側、石組、底共に南蛮たたき」構造を有

	すると記述があり、現存する遺構においても石組やたたきの一部が確認されていました。今回の発掘調査では、近現代の土を除去し、たたきの範囲や残存する高さ、石組の設置状況など基礎情報について確認を行いました。主な調査成果は、1枚目左側の2の（1）から（4）のとおりです。 1点目です。2枚目、左上の図をご覧ください。調査区は水堀内に位置する埋立地部分と、左側に延びる水道部分に分けられます。埋立地部分、水堀部分の両方で今回、ほぼ全面にわたってたたきを確認しました。中央の図4オルソ画像でベージュ色に見える部分がたたきです。白い点線の右側付近は、土が写っていますが、この土の下にたたきが広がっていることを確認しています。たたきの端は、西、北、東は矢板内に収まっていますが、南側についてはかく乱等を受けており、位置が少し乱れているため明確な端が不明な状態です。矢板の外まで、南側の端については広がる可能性があります。 このたたきですが、質や施工状況で大きく3つに分けられます。今回、たたきA、B、Cとまとめました。たたきAについては、明治10年頃に服部長七が発明したといわれている、人造石工法のものと考えています。水堀部分に広がっていたので、オルソ画像の右側に分布しています。階段状に施工されており、城内側、東側に向かって低く傾斜する形状をしています。城内側から見ると、水道部の前面にあたり、水の流入圧が高い場所に施工されていることから、護岸状の機能を持ったものと考えています。明治後半期から大正期にかけての磁器やガラス片が含まれる灰色の砂質土の上に施工されていることが確認できたので、このたたきは近代以降の構造物であることが確認できました。 次に、たたきBについてです。たたきBは水道部分に広がっていました。明るい橙色のものです。形状から3つに細分化できそうです。2枚目の左側中央の図3をご覧ください。この図3や、オルソ画像の右側に掲載している写真3とあわせてご覧いただくとわかりやすいと思います。上にはB-1と名付けましたが、断面U字状のたたきが形成されています。中位のところがたたきB-2と名付け、版築状の範囲が見える厚みのあるたたきが確認できました。その下に、B-3のたたきがあり、B-2と同様に平坦に施工されていますが、B-2の施工範囲よりは少し広い施工がされていることが推測されます。まん中のたたきB-2が、たたきAの上に施工されていることが確認できましたので、たたきBについても近代以降の造作ということがわかりました。最後のたたきCは、ほぼ全面がたたきBに覆われていました。たたきBが途切れる溝の部分や、私どもが行ったたたきBの断ち割り調査の下から確認がとれたものです。2枚目の左下の写真1、右下の写真5をご覧いただくとわかるように、破片で確認されるのみで、基本的に原位置を保っていないと考えています。たたきBの下にあるということで、近代より前に施工されていると考えられます。このたたきCが金城温古録の南蛮たたきに該当する可能性が考えられます。破片で出ているので、たたきBの施工時に割られて、基礎材として利用された可能性も考えられます。 2点目です。水道部分ですが、入口のところに水門の痕跡を今回確認しました。写真3や写真5のとおり、石組に溝やほぞ穴が刻まれています。このほぞ穴や溝の位置に、たたきBをうがった溝が入っており、この溝が門扉の受けと考えられる状況です。写真3や写真5に見える溝と、軸を同一にする溝が西側にも入っているので、門扉が複数枚あった可能性があります。オルソ画像や写真では黄色のマーカーで位置を示しています。

	3点目です。水道部分でたたきBの断ち割りを行ったところ、側面の石組が地下に深く続くことを確認しています。結果的に、この石組の最下段の下端面を確認することができました。図3たたき断ち割り断面図をご覧くだくとわかりやすいと思います。右下に黒い三角で示しているのが、石組下端面です。この位置ですが、標高値はTP値約3.05mで、現在の地表面より約1m下の位置にあります。この下端面は灰色の砂質の層が広がっており、たたきの施工は確認できませんでした。この下端面が、水道の掘り方の底の可能性もあり、江戸期の水道底は特定はできませんでしたが、深い位置で広がっていたと考えられる状況になります。たたきBが上のほうで厚く覆っているので、石組の下位の部分については積み直しなどがあまり行われず、比較的良好な状態で残存すると見られます。 4点目です。以上のとおり、辰之口にはたたきが厚く施工されており、その施工時期が近代であると、今推測しているところです。この近代の、当時の管理者が水道部の底上げした様子が、今回の調査で伺えました。よって、近代のいずれかの時期に、水堀の水を辰之口の方向へ流入することを防ぐようなことを意図した可能性が考えられる状況になりました。または、名古屋城の水堀の水位を高く保ちたいという意図があった、そういったことをめざした時期があったと推測される状況が見えてきました。 簡単ではありますが、以上で発掘調査の概要のご報告とします。
事務局	ご質問、ご意見等がありましたら、お願いします。
赤羽構成員	たたきのAとBとCが、どういう位置関係にあるのか、今一わからないですが、それは置いておいて。材質調査、たたきAとBとCで材質の違いあったのかどうかは、調査されましたか。
事務局	たたきAについては、ご説明したとおり人造石の可能性が高いと考えています。これについては、愛知県内で人造石を研究されている天野先生に見てもらい、人造石で間違いないであろうとコメントいただいています。たたきA、Bは、外れているものなどを採集していますので、今後分析にかけ、成分などで差を確認していくことになるかと思っています。
赤羽構成員	少し気になるのがたたきのCです。ここではCが、金城温古録に記載のある南蛮たたきではないかと書かれています。根拠は、どんなところにあるのですか。
事務局	今回、たたきCを確認できる場所が非常に限られていました。オルソ画像で書いている門扉の受け①と②、たたきの断ち割りをした部分、3つのうち1か所で確認をした状況で、まだまだ情報が非常に少ないところです。 いずれにしてもたたきBの下にあるという特徴が捉えられ、たたきBは確実に近代以降の施工であると確認ができましたので、江戸時代まで遡り得るのは、今回の調査ではたたきCのみであるということです。そこから南蛮たたきの可能性があるものと考えると、たたきCであろうと推測しました。
赤羽構成員	ありがとうございました。辰之口そのものの時系列、変遷っていうんで

	すかね。今の調査で、それを導くのはなかなか難しいかもしれませんが、先ほどの材質調査も含めて、今後どのような変遷を遂げてきたのか解明していただけたら、ありがたいと思います。
事務局	ありがとうございました。他は、いかがでしょうか。
三浦構成員	資料1ページの左のところの（1）です。それを読む限り、A、B、Cの築造年代は、古いほうからC、A 、Bですか。
事務局	古いほうからC、B、Aです。今、たたきA、B、Cは新しい順で書いてあり、古い順でいくとC、B、Aと考えています。
三浦構成員	ここに書いてあるご説明だと、BはAを底面として造っていると書いてあるから、BはAの上に乗っているということですよね。
事務局	すいません、説明が間違っていました。
三浦構成員	一番新しいのはBですね。
事務局	そうですね。すいません、説明が間違っていました。
三浦構成員	1ページの左には、文章を見ると、古い順はC、A、Bですね。それで2ページ目の右下の図を見ると、B－2の上にAが乗っています。矛盾していますけど、いいですか。
事務局	今のご指摘の部分は、図5の断面図の門扉の受け①の右側の部分かと思います。上からたたきA’、たたきB－2、たたきB－3、たたきAの順序になっています。実はたたきA’というのが、どのように考えるのか、今検討しているところです。たたきAとたたきA’は、質として非常によく似ています。たたきA’のみが、たたきAから位置がやや外れている部分で施工されている状況になっています。少なくとも、この図でいう、今見ているところの右側のたたきAの上にたたきB－2があるのは確認がとれています。同質のたたきA’がその上に施工されているのは確認されています。たたきAが古く、たたきBがたたきAとほぼ同時期か、それ以降に施工されたと考えています。たたきA’が、たたきBが施工された後に乗せられた、この部分だけ補足的に施工された可能性があると、現状では考えています。
三浦構成員	わかりました。文章のほうでA’について説明がないので、加えたほうがいいですね。ありがとうございます。
事務局	ありがとうございます。
事務局	ほかには、よろしいでしょうか。それでは報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。 ただ今より議事に移ります。ここからの進行は座長に一任します。瀬口座長、よろしくお願いします。

	6　議事 （1）水堀の活用（舟運）について（船着場の設計）
瀬口座長	いつものように、資料について事務局より説明をいただいてから、皆様方のご意見をお伺いしたいと思います。議事の（1）水堀の活用（舟運）について（船着場の設計）です。事務局より説明をお願いします。
事務局	水堀の活用、舟運についての船着場の設計ということで、前回の８月の全体整備検討会議のときに、船着場の設計方針についてご説明をしました。それに基づいて、設計を進めているところです。本日は、設計についてご説明します。おさらいになりますが、船着場の設計方針について簡単にご説明した後に、船着場の設計についてご説明します。 設計方針として、先ほど船着場の設置箇所における発掘調査のご報告をしましたが、排水部分を覆うように、大きな護岸状のような遺構が検出されました。この発掘調査の成果や、昨年度実施した社会実験等でのご意見をふまえて船着場の設計方針を以下のようにまとめました。 まず遺構の保存として、今回出た遺構は、原則露出展示は行わず、土中保存とします。船着場の整備については、遺構にかかる荷重が極力少なくなるように配慮して、設計を進めていきます。 辰之口の理解促進ということで、今回ご説明した発掘調査成果を記載した解説看板を船着場のところに設置します。今まで辰之口の水路を上から見下ろすかたちで見ていただく状況でしたが、船着場を設置することで目線のレベルで、間近に見ることができるようになり、より理解促進を図っていきたいと考えています。 次から待合所のところと、船着場の係留施設のところの方針になります。2ページ目の計画平面図をあわせてご覧いただきながら、ご説明したいと思います。 まず待合所についてです。前の画面に2ページ目を映していますので、あわせてご覧ください。こちらに今、水堀の脇の歩道と水堀の水面は高低差が1.5mほどあるので、階段とスロープを設置し、下りていただく形状にしています。下りた後、辰之口の水路を間近で見られるようなところに下り立つ配置を考えています。土中保存する遺構へかかる荷重を抑制するために、埋立地を囲んでいる既設の鋼矢板があるので、こちらに待合所の荷重をかけるようなかたちで設計を進めていきます。 続いて船着場の係留施設です。待合所から水堀のほうに来て、舟に乗るための渡し橋と浮桟橋を設置します。そちらについてご説明します。係留施設については、堀底と遺構への影響と水位変動に対応するために浮桟橋形状としています。水堀の形状が南北に抜けており、北風が強く吹くことがわかっていますので、浮桟橋を南北方向に設置することで、舟への強風に対する影響を抑制したいと考えています。浮桟橋の固定方法は、置き式のアンカーを堀底に設置することで、影響を抑制したいと考えています。舟については、喫水との関係から小さめの舟を考えています。車イスの方の乗船方法などを検討していきたいと考えています。 以上が、船着場の設計方針になります。続いて、今の方針に基づいて設計を進めてきましたので、ご説明します。まずは設計ということで、船着場と係留施設の設計として、右側に表１として船着場の設計概要を記載しています。また、委員の皆様にはあわせて参考資料１で各設計図を添付し

	ていますのでご覧ください。そちらの資料は、前の画面でも表示します。表１の船着場の設計概要をご説明します。はじめに、埋立地上に設置する待合所についてご説明します。基本構造としては、躯体は鋼材を用いて、その上に床材を設置するデッキ構造で設計を進めています。こちらは高低差があるので、待合所のまわりには転落防止柵、高さ1.1mのものを全周に設置することを考えています。入口のところに設置する階段とスロープの位置は、外側にスロープを設置し、水堀沿いをぐるっとＬ字に行って下りてくるかたちになっています。下りた後に西側のほうに向くと、辰之口の水路が見える配置になっています。階段については、スロープに沿うようなかたちでＬ字に設け、こちらについても下りた後に辰之口の水路が見える配置になっています。全体の計画には書いてありましたが、下りたところ、前の画面でカーソルでお示ししているところに、辰之口の、先ほどの発掘調査の成果を書いた解説看板を設置し、見ていただけるかたちで考えています。 　続いて、断面図です。先ほどご説明した転落防止柵が、上の図面のようなかたちで、高さ約1.1mのものを設置する予定です。デッキの固定方法は、先ほどご説明した下の鋼材に、上に乗るデッキをボルト等で固定するかたちで設計を進めています。 　もう１ページ参考資料をご覧ください。こちらが水堀側から見た断面図です。上側がスロープのところで切った断面図になっており、下側が階段のところを切った断面図になっています。スロープについては、勾配を、名古屋市福祉都市環境整備指針の8%で、今回設定しています。階段については、前回委員の方からのご意見で、できる限り踏み幅をとったり、蹴上を低くなどがありましたので、それをふまえて検討を進めており、13.4ｃｍの蹴上の高さ、また踏み面は35ｃｍで設置する形状で考えています。 　続いて、デッキの荷重のかけ方です。断面をご覧ください。左上のＣ-Ｃ断面をご覧ください。上のデッキ構造のものを、下の下部工が支えており、下の下部工をまずは周囲を囲っている鋼矢板に、笠コンクリートブロックを設置し、こちらに荷重が乗るようなかたちを検討しています。また、今回埋立地のところに荷重を分散させるということで、全体的に厚さ13㎝ の鉄筋コンクリートを打ち、その上に調整コンクリートを打ち、そこに横桁、主桁等の荷重を面的に荷重が分散されるようなかたちで、荷重を伝えていくことを考えています。 　以上が待合所のご説明で、次に係留施設の図面が６ページにありますので、ご覧ください。渡り橋については、軽量であること、たわみが抑制できるということで、アルミ製のトラス構造を採用しています。桟橋は、重力式コンクリートアンカーで固定しますが、移動が伴うものになりますので、待合所のほうとの接合部分については、桟橋の動きに対応するために、回転のヒンジを設置するかたちで設計を検討しています。 　続いて、浮桟橋の図面が７ページにあります。アルミ製のセパレートタイプを検討しています。耐久性が高いことと、浮桟橋がフロートとフレームを、それぞれの部材で設置する形状になっています。例えば、損傷したとしても壊れたところだけを取り替えられるというメンテナンス性も容易と考えて、こういった構造を検討しています。また、渡り橋と浮桟橋についても、高さ1.1mの柵を全周に設置することで、安全性を図っていきたいと考えています。 　以上が設計の概要のご説明です。最後に、ボーリング調査を埋立地のところで行っています。調査結果の概要について、ご説明します。令和５年

	の１月に行っており、ボーリング長は約 20mの深さで、ボーリングを行っています。内容については、標準貫入試験と、土質の試料採集を行っています。結果として、本日ご説明した船着場の設置をしても大丈夫な地盤であると確認できています。 　簡単ですが、説明は以上になります。
瀬口座長	ただ今の説明について、ご意見、ご質問をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。
丸山副座長	少し気になるのが、柵のデザインです。この柵は、高齢の方は笠木を支えにしてずっと移動されるんですよね。
事務局	図面上で上手く表記できていないですけども、手すりをですね。
丸山副座長	例えば、資料２の、参考資料ですか。側面から左手、ソーラーラインのところ、柱のところにずっと付けられるデザインです。気になるのは、この柵が、笠木のところを持ちながらずっと移動されるんですか。
事務局	ここに上手く表記ができていないですけど、手すりを内側のほうに設置し、その手すりを持って移動していただくことになります。
丸山副座長	右側に、そういうものを付けられるんですか。
事務局	そうです。両側に２段の手すりを、車イスの方など背丈の関係がありますので、２段の手すりを付けます。
丸山福座長	そうですか。それなら結構です。それは、ここには書いていないですよね。
事務局	表記が漏れている絵を載せてしまい、すいません。こちら、手すりが付きます。
丸山副座長	そこは重要なところかと思います。デザインだけでなく、障害者あるいは高齢者がずっと手すりを持っていけるという安全性ですね。今回の図面には、それが抜けていたので、わかりました。
瀬口座長	ほかには、どうでしょうか。
小濵構成員	先回と変わっているので、お聞きしたいです。まだ構造計算が終わっていないから、あまり細かいことをいっても意味がないので、構造の基本的なことだけお話したいと思います。 　先回は、全体を支える敷桁と横桁ですか。敷桁を敷いて、その上に横桁を敷くというのと、矢板の部分で支持しているわけです。今回は、敷桁と横桁が、天端が同レベルですね。
事務局	仰るとおりです。

小濵構成員	同レベルでやると、先回は横桁が１本で貫通していましたが、同レベルだと敷桁を貫通させると、横桁は貫通ができないです。ということは、敷桁に横桁を両側に溶接することになります。接合は、溶接接合をするということですね。 具体的な設計のときによく考えてほしいですけれども、どこかで継手を設けないと、とてもではないけれど運び入れられないです。継手をどこに設けるのかということを、よく考えていただきたいです。
事務局	ありがとうございます。
小濵構成員	それからもう一つ、その下の部分です。下にコンクリートの、おそらく床版をやると、130mmの厚さの床版コンクリートと書いてありますが、鉄筋コンクリートでやるということなので、鉄筋コンクリートと書いてください。でないと、鉄筋が入っていないのかということになって、無筋コンクリートかということになってしまいます。最低限の配筋、これはシングル配筋でも十分かと思いますが、そのようにしていただくということです。 もう一つ、矢板の上に笠コンクリートブロックがあります。これは現場打ですか。それともプレキャストですか。
事務局	プレキャストを想定しています。
小濵構成員	プレキャストを想定しているんですね。矢板は凸凹がありますよね。凸凹に添ったプレキャストで造るということですか。そういうことになりますね。
事務局	矢板は確かに凸凹していますけども、東側、北側と南側２ｃｍ程度しか変わっていないところがありますので、なんとかそこのところでできるかと考えています。
小濵構成員	コンクリートと、鉄骨は乗せた感じで、具体的には矢板とコンクリートブロック、その上に乗っている敷桁、横桁、こういったものをある程度アンカーボルトか何かで接合しないと、地震時にズレが生じる可能性があります。先回は、笠コンクリートブロックのところに、引っ張り力が生じるうんぬんとかいいましたけど、今回は非常に左右にはみ出して、バランスのとれた横桁になっているので、そういう現象は少ないと思いますが、ないからといって、まったくアンカーをとらないでやるというのは、実際にどんな応力がかかるかわかりませんので。細かいことですけども、そういうアンカーのことはきちんと考えてもらいたいです。 もう一つ、参考資料１に桟橋があります。これは全部アルミで造るのですか。ラチス橋ですけども、アルミで、全溶接で造られるのですか。これはパイプですか。
事務局	パイプです。
小濵構成員	全溶接で造るということですか。

事務局	一応ボルトで、それぞれ下のプレート等はボルトで固定する予定です。
小濵構成員	ガゼットみたいにプレートを出して、パイプを断ち割って差し込む、そういう接合方法をとるのですか。
事務局	ベースプレートに、下の鋼材にボルトで固定していく形状を考えています。
小濵構成員	これだとよくわからないですが、全溶接は非常に難しいです。パイプとパイプの接合部は、断面は3次元的な楕円になりますから、溶接は非常に難しいです。なるべく、溶接にするにしても簡単にするために、手すりのパイプというのはラチスのパイプよりも太めにするのが普通です。これは今、同数になっていますけど、手すりはもう少し太めにするとか、あるいは手すりは角型のパイプにするとか、それで接合性が上昇します。同質のパイプは、どうやって接合するのか。ラチスですね。そこが非常に問題です。特に、そこらへんをきちんとやっていないと、ラチス橋というのは静定構造ですから、1か所でも溶接が破断すると落橋します。そういった意味で、十分な溶接を考えてやってもらいたいと思います。
事務局	ありがとうございます。
小濵構成員	次のページの浮桟橋も、全部アルミ合金ですか。これは鋼材は使わない。
事務局	基本的には、アルミ材で考えています。
小濵構成員	フロートの上の梁というのは、これもアルミ合金ですか。フロートの上です。
事務局	フロートの上のメインプレートって書いてあるところですか。
小濵構成員	フロートの上の横桁、桁ですね。これもアルミですか。全部アルミですか。
事務局	基本的にはアルミ材で考えています。
小濵構成員	アルミはいいのかな。耐久性はいいのかな、という気が、少ししました。こちらのほうがあまりプラスではないので。溶接はないと思いますけども。
事務局	そこのところ、もう一度しっかり検討します。
小濵構成員	具体的な設計に入ると、現場に持ち込むものもありますから、全部一体で持ち込めるのかどうかを考えて、どういうところに継ぎ手を設けるのか。そういうところをきちんと考えていただきたいと思います。
事務局	ありがとうございます。

瀬口座長	ほかには、どうでしょうか。よろしいですか。
赤羽構成員	資料１の最初のほうに、基本的なことが書かれています。待合所と書いてありますけど、後の具体的な、今日の船着場の設計図のことに限定したことではないですが、どういう方法で受付をするのか、予約制にするのか、集合場所をどこにするのか。そういうソフトのことをあわせて考えていかないといけないのかと思いました。 それと、一番下に、舟は遺構への影響や喫水などの関係から小型の舟を想定しているとあります。舟のことについては、また後で検討して、報告があるということでしょうか。今何か意見をいわせていただいてもいいですか。
事務局	はい、大丈夫です。２枚目の図面の図１のところに、今の想定の舟の形状を書いてあります。
赤羽構成員	その舟は川舟と書いてありますが。私もこの前に乗せてもらったことからいうと、一つのこういう桟橋では不安定ではないかと思いました。例を挙げると、白い部分が桟橋で、コの字のような形にして、間に舟をいれる形のほうが安定するのではないかと思いました。風のある日は止めるなども検討されるのでしょうけれど。浮桟橋をコの字の形にして、コの字の間に舟を入れることを考えていただけたらと思います。それから右のほうで降りた人が、下の桟橋を渡って戻る。逆に、これから乗る人はこちらから乗ると、スムーズではないかと思います。いずれにしても、川舟程度のものとなれば、ちょっと安定性にかけるのではないかと思い、両側で挟み込んだような桟橋のほうがいいのではないかと思いました。 それから、舟のことを検討するのは後日なんでしょうが、乗った経験からいうと、床に座るというのは、高齢の者からすると苦痛なんですね。膝がガクガクしているので。せっかく学芸員の方が石垣などの説明をされていても、位置を変えて見るというのは、つらいものがありました。ひょっとしたら、イスにしたほうがいいのではないかと。座る場所をね。固定のイスにしたほうがいいのではないかと思いました。あるいは、ここに、身体障害者の方に配慮すると書いてあります。そういうかたちで、イスを設けて、あるいは車イスの方がそのまま乗り込めるようなかたちで、いろいろ考えたほうがいいのではないかと思いました。今日の議題から外れるかもしれませんが、ソフトのこともぜひ考えていただきたいと思います。
事務局	舟にイスを設置して座れるようにしたほうがというお話ですが、障害者団体の方とお話をして、今検討を進めているところです。やはり平らなところ、床に座ることが難しいという方がいらっしゃることも伺っています。例えば、持ち運べるイスを用意しておいて、イスに座りたい方にはイスを利用できるようにしておく、もたれられるスペースを確保しておくということも必要だというご意見もありますので、そういったところをあわせて検討を進めているところです。 また、車イスの方が直接乗れるようにというご意見ですが、そういったことが対応できる舟が製造できるかどうかも、あわせて検討を進めています。どういったかたちでできるのか、というところもありますけれども、舟の検討については、これからも引き続き進めていきたいと思います。 運用のこともお話にありましたが、チケットをどこで買うのかなどの検

	討は必要だと考えています。待合所で買うには、スペース上なかなか難しいので、例えば正門や東門のチケット販売のところで購入するなど、そういったところも含めてこれから検討を進めていきたいと考えています。 　また舟の固定方法で、コの字型に囲うようにというご意見がありました。こちらも、どのくらいの方に乗っていただくか想定をしながら、しっかり安全に固定できるかたちを、引き続き考えていきたいと思います。
小濵構成員	もう一つだけ。今、浮桟橋の話が出たので、少し思ったんですけど、今の案の浮桟橋は、幅2mですね。幅によって浮桟橋が横揺れっていうんですか、そういうことあると思います。それが2mとか3mに大きくすれば、それなりに揺れが少なくなります。そのへんをよく検討されて、本当に2mでいいのか、もし不足であれば、幅をもう少し大きくするとか、そういったところを検討していただきたいと思います。
事務局	ありがとうございます。
瀬口座長	ほかには、どうでしょうか。
麓構成員	すでに考えられていると思いますけど、ここに乗られる方は、ライフジャケットみたいなものを着て乗られるんですよね。待合所って呼んでいますけど、それはどこで保管してあって、どこで借りて、どこで装着して、乗船を待つとか、それ以外でも何か必要なものがあるかもしれないですよね。そういうのは、どこに置くのですか。
事務局	ライフジャケット等の資材については、階段スロープの下に空きスペースがあるので、ここに置きたいと考えています。 　簡易なテントみたいなものをこちらに建て、こちらでパンフレットをお配りしたりすることを考えています。ライフジャケットの受け渡しなどについても、待合所に下りて来ていただいた後にお渡しし、着け外しをしていただく予定をしています。必ず着けたうえで、渡り橋と桟橋を渡って戻ってきていただくことを検討しています。
麓構成員	そうすると一度に、この待合所に、お客さんは何人くらいがライフジャケットを装着したり、待っていたり、舟から下船する人もいると思いますけど、そういう人たちが何人くらいいらっしゃるのですか。
事務局	船が最大で20人乗りを考えています。その1グループが、こちらの待合所に滞留することになります。時間をずらして、2グループがこちらに来ることがないように検討していきたいと考えています。
麓構成員	次に乗る人が20人くらいいますよね。ライフジャケットを着て。降りてきた人が20人くらいいて。40人くらいが、あそこの待合所にいる、という計算ですか。
事務局	そうではないです。1つの舟ではなくて複数の舟を用意し、戻ってきた方と乗る方が同じタイミングで待合所にいる状態がない運行スケジュールを検討していきたいと考えています。ライフジャケットも、20個では

	なくて、40 個、60 個用意する形を検討しています。
麓構成員	乗船、下船に、充分間隔があるということですね。
事務局	そうです。
麓構成員	わかりました。今の説明で、テントのようなものをといっていましたけど、テントだと仮設的になるので、もう少しちゃんとしたものを造ったほうがよくないですか。
事務局	そこが、まだ検討が間に合っていないところです。どのような形がいいのか、これから検討します。
瀬口座長	ほかには、どうでしょうか。よろしいですか。 2 ページのところに、管理者用スペースとありますが、ここに屋根が付くのですか。
事務局	そのように考えています。
瀬口座長	それは着脱して、使うときだけ立体的にして、1 年で半分くらい使っていないとすると、そのときは解体してスロープの下に入れておくということですか。
事務局	そういう想定で考えていました。
瀬口座長	この階段ですが、名古屋市の基準で 13.5ｃｍと 35ｃｍというのは、ほぼ福祉の基準ですと、ぎりぎりくらいの勾配ですか。
事務局	福祉都市環境整備指針だと、蹴上が 15ｃｍ以下で踏み幅 35ｃｍ以上という基準があります。
瀬口座長	もっと緩やかでいいのではないかと思います。約 12 分の 1 くらいでしょう。
事務局	そうですね。
瀬口座長	普通の一幅、きつくして 12 分の 1 くらいだから。もっと緩やかにすることを考えたらどうかと思うのは、名古屋だから凍結はしないと思うけど、スロープは凍結すると使えないですよね。冬は運航しないというのなら別ですけど。冬に運航するとなると、階段をできるだけ緩くしておいて、そこを手すりを持って上下するという。障害者も段差が低ければ、階段で行けますよね。スロープでなくてはいけないということはないですから。 平面図を見る限りでは、もう少し 90ｃｍくらい前に出せそうなので、ここをほかにスペースを使う予定があるのならば別ですが。手すりをもうワンスパン分くらい出すと緩やかになると思いました。参考にしていただけるといいです。

事務局	待合所のスペースの関係も含めて検討を進めていきます。
瀬口座長	ほかには、よろしいでしょうか。 それでは、ここはまだ現状変更の手続きはないですけど、いろいろ意見がありましたので、また部会のほうで検討していただきたいと思います。今、全体整備検討会議で出た意見を含めて、また全体整備検討会議のほうに報告していただきたいと思います。 それでは議事に（2）に移ります。植栽管理計画です。資料3について、事務局からご説明をお願いします。
	（2）植栽管理計画について
事務局	植栽管理計画については、令和4年3月の47回、令和5年10月の57回、令和6年6月の60回の全体整備検討会議で、計3回にわたりご説明させていただきました。本日は、今年6月の第60回全体整備検討会議の中で、座長をはじめ構成員、オブザーバーの皆様からご意見をいただいた内容を植栽管理計画案に反映させていただき、植栽管理計画を修正したものをご説明します。植栽管理計画について、資料3をご覧ください。 第60回全体整備検討会議で示した、名古屋城植栽管理計画（案）について、下記事項の加筆修正を行いました。 「1 植栽管理の理念」です。当初の文章として、「特別史跡に相応しい風致に維持・向上させるとともに、観光地及び都市公園としての魅力を向上させることで、誰もが集いたくなる名古屋城を将来にわたって実現する。」において、ご意見は「観光地及び都市公園としての魅力というのは、結果としてでてくること。これを目的にする必要はないのではないか」、といただきました。これに対して、「特別史跡に相応しい風致に維持・向上させ、誰もが集いたくなる名古屋城を将来にわたって実現する。」と修正させていただきます。 「2 名古屋城総合事務所以外の管理区分」です。ご意見として、「計画範囲でないところも計画すべき。」「また、特別史跡名古屋城跡というのは、三之丸の堀、土塁もある。土塁という文化財を守っていく、保持していくうえでも、樹木をどう管理していくか」というご意見でした。これに対して、植栽管理計画（案）に、「名古屋城総合事務所以外の管理区分」を追加させていただきます。まず目次に「第8章 名古屋城総合事務所以外の管理区分」を追加し、本文に右の囲みを追加させていただきます。「第8章 名古屋城総合事務所以外の管理区分」「本計画では、特別史跡指定範囲も計画的な植栽管理を行う必要があると考える。そのため、名古屋市緑政土木局の管理区域を計画対象範囲に含み、緑政土木局と調整を行い、取り組んでいく。また、名古屋市以外の管理区分については、各管理者に本計画の進捗管理などの情報提供を行うとともに、協力を求めていく。」という文章と、特別史跡指定地の管理区分の図を追加させていただきます。 最後になりますが、今後、緑政土木局の管理区分ですが、植栽の現状、課題、方針及び計画等が整ったら植栽管理計画を改めて改訂していきたいと考えております。以上が植栽管理計画についての説明です。よろしくお願いします。
瀬口座長	今の説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

三浦構成員	これは特別史跡の指定範囲の話なので、直接関係はないですが、この会議で以前に何度かお話しています。史跡の周囲の環境で、史跡の景観に甚大に影響をおよぼすところは、きちんとやらないといけないのではないかと思います。 それで、二之丸の堀の南側と東側は、指定地外です。だけれども、名古屋城に来る人はその部分のところを特に、名古屋城の地下鉄の駅から名古屋城の二之丸の東門のところまでの間、金シャチ横丁のところとの間は、堀のすぐ東側です。そこのところに、2mくらいの幅のツツジの生垣があります。そこに葛が猛烈に絡まって、名古屋城の中で最も雑な植生になっています。以前から、そこをなんとかしてほしいとお話していますけども。指定外かもしれないですけど、そこから、本来なら名古屋城の二之丸の壮大な石垣が見られるはずですが、そのツツジの植栽が2mもあって、しかもほったらかしで、現状では葛が絡みついて雑になっている。日本中の史跡の中で見たときに、立派な石垣を見るのを阻害しているところ、3つのワーストに、名古屋城の二之丸のこの部分、それから丹波篠山城、伊賀上野があり、立派な石垣がそのせいで見えません。この部分について、今回は史跡の指定地なんでしょうけど。史跡のまわりのくっついているところは、公共用地です。所有は多分、名古屋市ではないですか。今はバッファゾーンなので、ここには直接関係はないですが、その部分のところをきちんと管理して、きれいにしなければ、内側をいくらきれいにしたって何も見えないです。何度もお話していますが、ちっとも改善されず、どんどん悪化する一方です。そろそろ、真面目に検討してください、といいたいです。以上です。
緑地事業課	先生からいただいたご意見を、これまでのご意見を、私どもも拝見しています。観光文化交流局も、このエリアを一部管理しています。先生のいわれるとおりです。観光客の皆様、市民の皆様が見ると、ここは一体どこかという景観を呈している状況を認識しています。 これまでの、この会議においての植栽管理計画というのは、史跡エリアを中心に、非常に詳細な調査や検討をされてきて、かなり成功していると思っています。一方で、ご指摘のエリアについては、いったいどうなっているのか、というところがあるかと思います。 私どもが一つ議題を出していますが、史跡のエリアに向かうエリアですが、愛知県体育館が新しくなるのをきっかけに名古屋城一帯エリアを、関係局あわせて、魅力を高めていこうということで動き始めています。そうした中で、ご指摘されたところの植栽の在り方、管理の在り方。また、後ほどお話しますが、施設の在り方についても改修を進めるべきではないかということで、遅いかもしれませんが、これから動いていきたいと思っています。具体的なところはこれから、計画に記載されるように、連携して、これからというところです。少なくとも、課題については認識をしています。よろしくお願いします。
三浦構成員	よろしくお願いします。
瀬口座長	史跡指定地以外の、実際に皆さんが名古屋城と認識して来ている部分についての植栽をどうするのか、というご指摘は今までも何回も出ています。これは、計画を1回出してもらうことになりますか。名古屋城総合事務所として、緑政土木局にお願いして出してください。

事務局	名古屋市全体の管理の話になりますので、関係局が連携して、
瀬口座長	全体ではなくて、名古屋城周辺のです。
事務局	名古屋城特別史跡周辺の、三浦先生からご指摘があったような、特別史跡の範囲だけではなく周辺も含めて、今後どういう管理をしていくのかという計画は、今ご指摘の植栽を含めた全体像について、今後検討を進めていきたいと思います。
瀬口座長	現在の植栽管理計画とは別に、作成して出していただけることになりますか。金シャチ横丁は2か所ありますよね。あそこの管理はどうなっているのですか。そこに雑草が生い茂ったりするとまずいのではないですか、という声が出てきますよね。
緑地事業課	今のご指摘ですが、別に考えていこうというのが、関係局との中の方向性です。先ほどお話したとおり、史跡のほうはこれまで調査や方向性の議論が行われています。一方で、外側のところについては、緑政土木局の管理や、観光文化交流局の管理といったところの中で、将来の方向性みたいなところまで、十分に議論がされていない状況です。これから周辺の整備ということも、緑政土木局で行っていくことで動き出しています。植栽もその中の一部として、どのようにもっていくのか、別途考えたいと思っていますので、この植栽管理計画については、この記載で留めていただけたらと思っています。
瀬口座長	今のお話だと、現在提出されているものは、史跡の範囲ということでまとめたいと。今意見が出た名古屋城というのは、史跡の範囲だけではなくて、先ほど指摘がありましたが、バッファゾーンにあたる部分について、名古屋市全体のことではなくて、名古屋城のバッファゾーンをどうするのか、というのは、名古屋城総合事務所として関連が非常にありますよね。それも別途切り離して、この会議に出していただけると、いいかと思います。史跡になっていないところをどうするのか、という議論をどこでやるのかといったら、緑政土木局でやるというのではなく、名古屋城の全体整備検討会議でバッファゾーンについても意見がもらえるといいと思います。ちょっとそういうことも検討してもらえますか。
事務局	先ほど緑政土木局からの説明がありました。観光文化交流局でも、金シャチ横丁の関係は、管理活用課が関わって管理をしています。名古屋城周辺のことのお話があり、今後の会議で説明をということでした。緑政土木局さんとも調整をし、会議として諮れるかどうかというところも、一度調整したいと思います。
瀬口座長	よろしくお願いします。今の植栽管理計画について、ご意見はありますか。
丸山副座長	今日の議事の（6）です。これが、今いわれたことを具体的に、先行してされるということで、今回議事になっていると思います。これが資料7なので、できれば関連するので、これを先に説明していただけるといいか

	と思いますけど。ここは、愛知県の新体育館に至るまでの、園路等の改修とありますが、私自身は園路等の修景計画として捉えてもらったほうが、タイトルを変えてもらったほうがいいかと思います。そのほうが、大きい意味がありますので。これが、先ほど座長もいわれたように、全体のバッファゾーンの一部ですけども。これを事例として、今緑政土木局で考えられているところだと思いますので。こちらを連続してご説明してほしいです。
瀬口座長	だいたい1時間経ちましたので、休憩ですね。提案がありましたが、進捗は進んでいませんけど、今の植栽管理計画については、これでよろしいですか。 バッファゾーンにあたる部分については、最後の議題にもありますので、そこでもう1回いっていただくことにさせてください。 それでは議題2について、本日のご意見をふまえて、引き続き検討していただきたいと思います。 それでは、5分休憩をします。
	― 休憩 ―
	(3) 二之丸庭園の発掘調査について
瀬口座長	それでは再開します。 議事の (3) 二之丸庭園の発掘調査についてです。事務局より説明をお願いします。
事務局	本件は8月に開催された第61回全体整備検討会議でお示しし、その後開かれた庭園部会にてご審議していただいたので、改めて今回の全体整備検討会議にてご説明するものです。 調査は、近世のお庭の外にあたる外縁調査区と、お庭の北池周辺である庭園調査区の2つのエリアで行う予定です。庭園調査区は2か所の調査区を設定する予定です。調査区域の調査における重機係留場所や廃土置き場などを含めた現状変更範囲を、1ページの右側の図1に示し、外縁調査区を2ページ目の図2に、庭園調査区を図4に示しています。各調査区について説明します。 まず、庭園部会でご意見のあった、庭園調査区から説明します。庭園調査区は、北池の具体的な整備内容を検討する中で、不明確な箇所が出てきたため、それを明らかにするために設定する調査区で、2か所あります。不明確な箇所の1つが、前回の庭園部会で整備した北池北岸の礫敷遺構の下層です。1977年に調査された、調査写真を画面に提示しています。礫敷は、今マウスで示しているところになります。この礫敷の下層にたたきが広がっており、その中に方形や円形の土坑が確認でき、飛石等の石の据え付け、または抜き取り痕かと推定しています。この飛石の据え付けとたたきの整合関係や時期、施工方法を確認し、整備に活かすために庭園調査区1を設定して発掘調査を行いたいと考えています。 庭園調査区2の位置でも、調査区1と同様に礫敷遺構が広がっているため、時期や性格を調べるために発掘調査を行います。あわせて池底のたたきにあけられた穴を調査し、池底のたたきの時期や面数、壁面のたたきとの違いについても調査できればと考えています。庭園調査区2では、礫敷

	のほかに橋台、たたきの護岸部分が調査区内に位置しているので、これらの構造と構築年代の調査も行います。この調査区の北西に、護岸たたきが失われている箇所があり、庭園部会でここを調査してたたき護岸背面の構造を確認したほうがいいという指摘があったため、たたき護岸をカバーするように調査区を拡大しました。また、調査区形状を、清掃範囲を含めて整え直しました。図5で、前回の全体整備検討会議で示した調査区を青の破線で、庭園部会のご意見を反映させて変更したものを赤の実線で示しました。 外縁調査区は、前回の全体整備検討会議で示した内容と変更はありません。 二之丸庭園の発掘調査の説明は以上です。
瀬口座長	ただ今の発掘調査範囲の変更について説明がありました。ご意見、ご質問がありましたら、お願いします。特によろしいですか。 それでは、1ページの現状変更申請範囲既往のものから現状変更申請範囲のことについて、特に意見がありませんでしたので、現状変更許可に必要な手続きを進めてください。 続いて、議事の（4）重要文化財建造物等保存活用計画について（西北隅櫓におけるボーリング調査）です。資料の説明をお願いします。
	（4）重要文化財建造物等保存活用計画について （西北隅櫓におけるボーリング調査）
事務局	今年度、西北隅櫓付近で実施を計画しているボーリング調査について、前回の全体整備検討会議から石垣・埋蔵文化財部会と建造物部会での検討結果をご説明します。 まず1ページ目の調査内容について、前回の全体整備検討会議でボーリング長が70mで十分か、というご意見がありました。そのため、実際の現場状況にあわせて変更できるように、最大 80mと修正しました。右側のスケジュールの部分では、保存活用計画の一つの要素として耐震診断があり、そのためにボーリング調査を実施する、という記載に修正しました。1ページ目の調査については、石垣・埋蔵文化財部会で地表下の浅い部分についても築城時のデータとして重視するように、とご意見がありました。 続いて3ページ目をご覧ください。前回の全体整備検討会議にて、西北隅櫓の地盤環境を考えると、ボーリングの長さが 70mでは有効なデータが得られないのではないか、というご指摘がありました。そのため、ここで地盤環境の検討をしています。70mに設定した根拠は、4ページ目の図6で整理しています。図6は本丸部分で実施したボーリング調査のうち、左の図で赤字で示している4か所のボーリング調査を整理した、模式的な横断図となっています。このうち（2）本丸御殿と大天守の部分でPS検層を実施するために深く掘削しています。その結果、土中の標高マイナス52mより深い礫質土の部分で、Vs 値が 400m／s 以上となっていることから、耐震設計の基準となる工学的基盤に相当します。今回も、この面に到達するためには70mで可能であろうと推定し、計画しました。 一方で、ご指摘として、3ページ目の図4のとおり西北隅櫓が熱田台地の北西端に位置することから、低地部に分厚く盛土をしている可能性があります。また、熱田台地は地震の隆起によって形成された可能性をふまえ

	ると、深い地盤の部分が大きくずれている可能性があるということでした。これをふまえて（1）では、現状の熱田台地西縁部の形成要因で考えられているものを整理しています。説としては、海食崖とされるものと、地震活動による形成としているものがあります。これを受けて、名古屋市も平成29年度の調査から、周辺の堀川付近では1000mあたり5m以上の傾斜がありまして、そこから傾斜は、やや深部にある断層の動きに伴う断層の撓曲である可能性が高いとしています。こうした調査結果からも、西北隅櫓の下層の地盤も変位を受けている可能性がありますが、1000mあたり5mの緩やかな傾斜とすると、調査に大きな影響はないと考えています。 右側のページの（2）では、西北隅櫓の地盤想定として、名古屋城内の西側で過去に行っているボーリングデータを比較検討しています。5ページ目の図7の既往の調査結果を見ると、御深井丸と西側の3か所で、盛土厚が3.6mから8.3mとなっています。この盛土の下の熱田層の上部の標高も数mの差に留まっていることから、西北隅櫓の地盤自体が純粋な低地の上にあるとは考えにくく、城内の他箇所と同様に調査をして問題ないと考えています。 これらの検討をうけ、建造物部会では、実際にボーリング調査を実施しないとわからないため、最大80mにするのがいいというご意見をいただいています。 説明は以上です。よろしくお願いします。
瀬口座長	ご質問、ご意見をお願いします。 西北隅櫓のところの標高と、天守、本丸の標高との差はどのくらいですか。
事務局	天守、本丸の標高は、およそ14m程度で、西北隅櫓は12mほどになっています。
瀬口座長	2mの差しかないので、下の方の地盤が本丸と同じように考えて差し支えないと思われるという結論ですね。
事務局	そのとおりです。
瀬口座長	クリアランスをとって最大10mを延ばして、最大80mまでボーリング長をとるということで、建造物部会で意見をもらっているということです。ご質問はありますか。
丸山副座長	前にもタイトルの話が出たと思います。実際に行われるのは、西北隅櫓におけるボーリング調査ですね。上のタイトルが、重要文化財建造物等保存活用計画について、ではないと思いますけども。下の括弧付きのほうが実際の内容なので、こちらのほうに変えられたほうがいいのではないかと思います。
事務局	重要文化財建造物等保存活用計画についてという大きなタイトルもお示ししていくかたちで、これまでもしていました。全体としてはこれで、個別の計画として括弧書きで書くということで、整理させていただきまし

	た。 　同じように、今回の議事に出ている（1）も、大きなところでは水堀の活用についてということで、今回は船着場の設計ということで、括弧書きでお示しすることで整理しました。
瀬口座長	前回に指摘があったので、右の図3とあわせて見れば、建造物等保存活用計画の中の調査である、ということなのでこのようにしている、ということですね。ボーリング調査だけ前面に出すと、どこのことかわからなくなるので、こういうふうにしているという説明ですか。
事務局	そういうことです。
瀬口座長	そのように理解していただけますか。
丸山副座長	内容からすれば、先ほどお話したとおりなんですけどね。逆にいえば、重要文化財云々のほうが、括弧付きのほうがいいのではないかと思いますけど。内容からするとです。特にこだわるわけではないですが、後で残された場合に変な感じがして、活用計画を変更するという意味では、ちょっと違うかなという気がします。
瀬口座長	保存活用計画の中に関わる事項なんですよ。
丸山副座長	だから括弧書きでいいじゃないですか。逆に。
瀬口座長	括弧書きで入っているから、いいじゃないですか。
丸山副座長	変な感じがしますけど。
瀬口座長	それはどちらでもいいですけど。事務局にお任せします。 　ほかにはどうでしょうか。よろしいですか。 　それでは次の5番目の園内サイン改修に移って、資料6です。説明をお願いします。
	(5) 園内サイン改修について
事務局	前回の全体整備検討会議において報告議題として挙げましたが、こちらは大事な話であるということで、議題としてしっかり議論すべきというご指摘がありましたので、本日ご説明します。 　前回の会議のご意見で、昨年度実施した城内の調査などの説明がもう少し必要だということ、歴史的な景観を阻害しない構造や配置をしっかり考える必要がある、安全性の観点から看板の基礎のベースプレートをあけたりする構造だと危ないのではないかというものがありました。また、文化財の解説は正確に、しっかり考えて記載すること、というご意見がありました。今回は、そういたところが説明できるように資料を作りましたので、ご説明します。 　1の園内サイン改修の趣旨として、前回ご説明したとおり、写真の図1、図2のように老朽化しているものや、解説看板についても木札の仕様のも

	のや鋼製の仕様のものなど、その場その場で必要な看板を整備してきたところがあり、統一感がないという現状があります。そういった中でわかりやすく快適に城内をまわっていただくこととあわせて、歴史的な景観を阻害しない看板にする。例えば、図1を見ていただくと、石垣が欠けているようなかたちで木札が設置されていたりします。そういったところに、しっかり配慮した形で行っていきたいと考えています。 昨年度、1年間かけて3つの調査を行っています。2番になります。1つ目として、名古屋城内のサインの現状の調査です。どういった数があるのか、どういったものがあるのかを調査しました。また、名古屋城に来られる観覧者の方々にアンケートをとり、看板についてどういったことを思われているのか調査しました。最後に他城郭がどういったかたちで看板が設置されているのかを調査しました。この3つについて、簡単にご説明します。 名古屋城のサイン看板は、統一感がないことや、看板の表示が日本語だけになっており、言語表示ができていないものが半数程度あります。例えば図 1 のように、木札で高い位置にあったり、そういった高さも不均一で、車イスの方には見づらい状況などが見受けられました。注意看板は、ラミネートで喚起しているものが多数あり、歴史的な景観を阻害しているものも見受けられました。そういったことが調査からわかってきています。 (2) のところで観覧者のアンケートを行っています。聞いたところによると、解説の内容がわかりにくい、図3に書いてある案内看板は、平面に矢印で斜め上とか書いてありますが、実際にどちらに進めばいいかわかりにくい、というご意見がありました。外国の方、車イスの方などいろいろな方が来られるので、そういった方々への配慮をしっかりしたほうがいいというご意見もありました。また、名古屋城に来ていただいている方で、歴史的、文化的価値をしっかり学びたいという方も半数以上いらっしゃいましたが、情報が一律に書いてあるので、どういうところを見ればわかるのか、今の状況では分かりにくいというご意見をいただいています。 3つ目、他城郭の調査として金沢城や熊本城を調査しており、参考になる点を3つ書いています。1つ目として、統一感があることが、景観に溶け込んで、落ち着いたデザインが景観的に良いと感じました。解説看板についてはこういった構造と、統一を図られていることについて、一目でわかりやすいと感じました。また、多言語の対応として日、英、中 (繁、簡)、韓の5言語にしているところと、日、英にしているところと分かれていました。ただ、5言語を書くと、文字がかなり小さくなるというところが見受けられました。 そういった調査を行い、右側にそれぞれの調査に従い、基本的なサイン看板の改修の考え方をまとめたものが3になります。 1つ目として、名古屋城の歴史的景観に溶け込むということと、史跡の支障にならない意匠にすることを掲げています。色についても、視認性を高める色ですが、名古屋城に合った、例えば図4のように板面についてはクリーム色、鋼材についてはこげ茶色というような溶け込み感が感じられるような色で検討しています。配置についても、観覧者の動線をしっかり確認し、史跡の観覧の阻害にならないような場所をひとつずつ確認しながら、調整をしていく方針で考えています。 続いて2番、看板サインの構造と役割についてご説明します。看板の構造は、遺構への影響を抑制するために、置き式を考えています。福祉都市

	環境整備指針に準拠し、ユニバーサルデザインの観点から、例えば車イスの方でも、立った方でも見やすい高さや角度にしたり、文化財の写真撮影等でも支障がないように板面を低くする。ただ、低くすると見にくくなることもありますので傾斜をさせるといった、イメージとしては図4のような構造を考えています。こちらは前回の会議において、置き式の看板の基礎が鉄の板状で広く広がっていると、がたつきがあったり、段差があったりして、安全上懸念があるというご意見がありました。今回、傾斜した看板にし、下のプレートが看板の下に収まるかたちで乗ってしまうことがない構造に変更しました。 　続いて、看板の役割です。3 つの看板を設置したいと考えています。1つ目が文化財等を解説する看板です。次に、エリア解説看板を新しく設置したいと考えています。名古屋城の各施設の解説だけではなく、本丸や西之丸など名古屋城の縄張りについても感じていただきたいということで、エリアを解説する看板を作りたいと思っています。最後に、誘導案内をする看板ということで、大きく3種類の役割の看板を作りたいと考えています。 　続いて（3）の解説文案の作成方法で、文章を作っていくうえでの方針をまとめています。多様な方が来場されるので、解説する施設の基本情報をまず記載します。特筆すべき見どころについては、例えば重要文化財など本質的価値を構成する要素については、見どころを特記することを考えています。城郭や歴史ファンの方など専門性の高い方には、どういった構造、高さなのか、造られた年度や重要文化財に指定された年度など詳細な情報をお示ししたいと考えています。ただ、文章の中に書き込むと長くなってしまい、結局は読んでもらえないことになってしまいますので、文章とは別に箇条書きで欄外に書いていきたいと思います。多言語表示については、日、英の2言語を記載します。その他の多言語については、二次元コード、QR コードを読み込んでもらい、スマートフォンなどから読んでもらうことを考えています。委員の皆様については、こちらの方針に従って作成する解説の文案を、参考資料の3ページ目に付けていますので、ご覧いただけたらと思います。 　続いて、配置計画についてです。委員の皆様にお配りしている参考資料を見ながら、ご説明します。画面にも、配置の資料を映します。 　1ページ目のものが、文化財等の解説看板およびエリア解説看板を示した平面図です。文化財等の解説看板が赤色、エリア解説看板が茶色で記載しています。設置の方針として、歴史的景観を阻害しないことと、解説の対象物を見ながら、きちんと看板が見える位置に設置するということを、1 個 1 個施設をまわりながら配置する場所を検討したものになっています。配置のイメージをプロジェクターに映しますので、見ながらご説明します。 　こちらが西南隅櫓を解説する看板が、見晴台の下のところに解説看板を置いたイメージを載せています。もともと木札が立っており、写真を撮ったときや見るときに中に移り込んでしまっていたものが、高さを抑えて角度をつけることで、景観を阻害しないようなかたちになっています。もう一つ、こちらが本丸のところのエリア解説看板を設置したイメージの写真です。手前側が本丸御殿で、右側にいくと東一之門のある位置になっています。高さを抑えて設置することで、石垣を阻害することなく、景観としても溶け込むようなかたちで設置できる配置を考えています。そういったかたちで一つずつ位置を現地で確認しながら、配置をプロットしたものが

	参考資料1になります。 　続いて、2ページ目です。誘導案内看板とエリア解説看板をプロットした図面です。誘導案内看板については青色、エリア解説看板は茶色でお示ししています。誘導案内看板については、主な分かれ道に配置し、立体的に方向を示すことで、直感的にわかりやすいものにしたいと考えています。案内する内容については、例えば天守など主要な施設や御深井丸などエリアを示す言葉に加えて、正門、東門などいわゆる出口までの方向と距離を記載します。例えば、左下の西南隅櫓のところに配置するものについては、御深井丸のエリアや本丸御殿、天守、二之丸庭園といったものを示す言葉とあわせて、正門出口は何m、東門出口は何mというかたちで、現在の位置と出口までの距離をわかるように表現したいと考えています。 　説明は以上になります。
瀬口座長	ご説明に対して、ご意見、ご質問をお願いします。
藤井構成員	文化財等解説看板も、エリア看板も、大きさがどのくらいか、いわれていないと思いますが、どのくらいの大きさですか。
事務局	プロジェクターでご説明します。こちらが文化財等解説看板のサイズです。横幅が74ｃｍ、縦幅が52.5ｃｍのサイズ感を考えています。こちらが重要文化財等の解説が充実したもののサイン看板になっています。例えば、清正石などの施設については、もう少し小さいサイズで、横幅が625ｍｍ、縦幅が460ｍｍのサイズで検討しています。
藤井構成員	もう一つ、文化財等解説看板の高さです。ここのページの、資料6のページにあるものは、ずいぶん低いと思います、車イスの方は見やすいかもしれないけれども、健常者はこれは読めない高さです。
事務局	ここの所の高さについては、これからどの高さにするのか、イメージとしては、こういった低いタイプのもので角度を付けていくことを考えています。
藤井構成員	どのくらいの高さにされるのですか。
事務局	今の想定では、手前側が10ｃｍ程度、奥側が50ｃｍ程度の高さで基本は考えています。
藤井構成員	右側はどうなんですか。
事務局	右側のところについても、手前側は 10ｃｍ程度、同じ角度でもってくるので、こちら側は32ｃｍ程度で、この絵は上がっています。
藤井構成員	実際に作ってみないとわからないと思いますが。それと対応言語を日本語と英語だけにするのか、4 か国語ないし 5 か国語にするのかによっても、この看板では入らないと思います。それを入れるとすると、まず読めないことになりますので、そのあたりはもう少し。私の観点からいうと、１m50ｃｍとか高くする必要はありませんが、50ｃｍくらい胴を上げたほ

	うがいいのではないか、という印象をもちました。いろいろな方の判断があって然るべきだと思いますけど。私の意見としては、あまりにも地面に近づいて大きすぎではないかという印象です。
事務局	見え方については、現地でサンプル、模型を作っている最中です。それを実際に現地に配置してみて、車イスでも、立ってでも見やすい高さを検証していきたいと考えています。
事務局	外国語の対応の件ですが、基本的には日本語と英語とします。右下にQRコードを付けており、QR コードを読み取っていただくと中国の繁体字や簡体字、ハングル語も見られるという状況です。
事務局	前のスクリーンに映し出しているかたちで、日本語、英語、後はQR コードで多言語が見られるかたちで考えています。
瀬口座長	ほかには、どうでしょうか。
三浦構成員	今の藤井先生のご質問の関連です。案内看板ですが、高さはどのくらいですか。
事務局	高さは、上端まで2.1m、頭が当たらない高さで、下端で2mくらいを検討しています。
三浦構成員	下端で2m。案内看板等の設置の大前提が書いてあります。歴史的景観を阻害しないという大前提が書いてあります。これは、猛烈に阻害しています。なぜこれで阻害していないといえるのか、教えてください。私の意見では、ものすごく阻害しています。 先ほど写真を撮るときに邪魔だといわれましたが、2mも出っ張ったものは猛烈に邪魔です。このへんについて説明をお願いします。
事務局	配置の図面の水色のところが、今いわれた誘導案内看板の設置する箇所になります。表二之門のところでお話すると、こちらには大きな木が茂っており、そこの手前側のところに配置する予定です。できる限り看板によって、景観を阻害することがないような位置を検討しているところです。
三浦構成員	それですと、本丸の西側のところは、手前のほうから西南隅櫓と天守等をまとめて写真が撮れる、名古屋城で一番大事な景観のところですが、間違いなく写り込みますよね。
事務局	ここから、写真を撮るとですね。
三浦構成員	そうですよね。一番大事なところに、この無様なものを立てるということは、到底許しがたいです。先ほどの、歴史的景観を阻害しないに著しく反します。これについて、なぜこの形にしなくてはいけないのか、なぜこの高さにしないといけないのか、ということについて説明がないです。 これは、高さが高くて矢羽根が付いていて、どのようなものに使うものかわかりますか。これは自然遊歩道に使うものなんですよ。自然遊歩道だ

	と、山の中を歩いているときに、まず目立たないといけない。これを見落とすと迷子になってしまい、人命に関わります。自然遊歩道では目立たなくてはいけない。もう一つは、自然遊歩道だと、道が直角ではなくて微妙な角度で交差しているので、矢羽根によって微妙な角度を的確に表示することによって迷わないようにする。ところが名古屋城は、日本でも一番直角に道が曲がっていて、矢羽根で表示するメリットが全然ないです。 ほかの史跡でも矢羽根はだんだん少数派になっていって、矢羽根ではないところが多くなっています。これは景観の阻害が、あまりにもひどすぎるので。それで止めてきているんですけど、なぜ名古屋城で、一番必要がなさそうなお城であえてレトロな、旧式の時代遅れのやり方をするのか。自然遊歩道ではない名古屋城で、なぜこれを使うのかということについて説明をお願いします。
事務局	他城郭の写真がこちらです。
三浦構成員	他城郭といっても、時代遅れのところを参考にしてもらっては困ります。いいところだけを出してくださいね。
事務局	矢羽根という話ですと、今の写真のものになります。調べたところで、金沢城の写真をご覧ください。ほかのお城の表示だと、標柱型タイプのものでやっているところがあったりしました。今の検討の中では、矢羽根タイプのものが一番誘導効力としては優れているのかなと考え、その案にしたところがあります。三浦先生がいわれた景観というところを考えると、高さを抑えて、あと直角の名古屋城というご指摘もありましたので、2方向を示せるような標柱タイプというのも、確かにものとして確認はしていました。こちらについては、今のご意見を参考に検討します。
三浦構成員	もう一度考えてください。
事務局	はい、ありがとうございます。
瀬口座長	ほかには、どうでしょうか。
赤羽構成員	材質についてですが、どういう材質を用いるのか。材質によって、ずいぶん劣化の進み方が違うと思いますので。材質についてご説明をお願いします。 もう一つは、QR コードが使われている。だいたいの説明板にあるように見えましたが、それは他の言語の中国や韓国語のためにということですが。専門性の高い観覧者に対応した詳細情報というので、この QR コードを用いることはできないのでしょうか。限られた説明板の中で、詳細な情報まで提示するのは難しいと思います。それも、QR コードみたいなものを使ってはどうかと思いました。 2点をお願いします。
事務局	初めに QR コードのお話についてです。基本的には、多言語解説で同じ内容のものを見えるかたちで読み込んだ場合に、英語なのか、中国語なのか、韓国語なのか、日本語も含めて選べることを考えています。例えば、

	目が不自由な方については、読み上げ機能で読んでもらえるようにします。日本語についても、同じ内容のものをまずは載せたいと考えています。その先に、詳しい内容をというところも、今ご指摘されて思いました。まずは、今回の板面のものをお示ししますが、先にさらに詳しい内容に飛べるようなことは、検討していくことができるかと思います。引き続き検討したいと思います。 　また、初めのご質問の構造については、基本的には鋼製のものを考えています。板面については、紫外線にも対応できるUVカットが付いているSIコートプリントのものや、シート貼りというところで選択しています。重要文化財のような、なかなか情報が更新されない長く使えるものについては、寿命が長いSIコートプリントのシートを貼り付けることを考えています。地図など更新が比較的短期間で行われるものについては、シート貼りシートの貼り付けを考えています。そちらについても、剥がして貼り替えられるような、メンテナンスのことを考えた板面シートを貼り付けることを考えています。
瀬口座長	ほかには、どうでしょうか。
麓構成員	令和6年度、7年度で計画、設置する解説看板ですけど、これがすべてですか。今、配置図に表しているのは、すべてですか。
事務局	令和6年度、7年度で行おうとしている解説看板については、こちらですべてです。
麓構成員	すべてですか。このエリア内で、もう少しあったほうがいいのではないかというものを、お話してもいいですか。
事務局	はい。
麓構成員	まず、地下鉄から降りて、金シャチ横丁のところから来るときに、二之丸東門から入ってきます。そこの枡形が、近代になってずいぶん改変されています。そういうことが、あのままではわからないですよね。あそこが、ちゃんと枡形になっていたということが。そこにちゃんと、元はちゃんとこういう枡形になっていたということがわかる解説板があったほうがいいと思います。 　それと、この範囲から外れていますけど、二之丸大手二之門、重要文化財のものがここには記されていないので、あわせてほかの重要文化財と同等に解説板を付けてもらいたいと思います。 　それと、東南隅櫓の解説板は、本丸御殿の解説板の横ですが、例えば西南隅櫓は堀の外側から見えるのと、湯殿書院の近くから見えるのと両方あります。東南隅櫓も、東側から入ってくる場合には、堀の外側から一番よく見えるので、そこに西南隅櫓と同じような扱いで書かれたほうがいいのではないかと思います。 　今度は、余芳です。余芳は、せっかくあれだけの建物が今、一部復元しているところですから、150文字サイズではなくて250文字サイズくらいで、丁寧に説明されたほうがいいのではないかと思います。 　それと、名古屋城の石垣について、慶長期からその後の石垣まで、いろ

	いろな時期の石垣があります。そういう時期の代表的な石垣の積み方、石垣技術、技法的なことですね。それを解説するようなものが、代表的な石垣の場所にあったほうがいいように思いました。 これは堀の内側だけですけど、堀の外側にもある程度は、北側のほうから天守を見る、堀の下御深井御庭のほうから天守を見るなど、堀の外側にも見どころになるような場所には、同様の解説板があったほうがいいと思いました。
事務局	今のご意見で少しだけご説明させていただきます。先ほどの石垣の話については、こちらに石垣という引き出しがあります。こちらに、今いわれたような趣旨の新しい看板を設置することを計画しています。 余芳のことについては、文字数のことでお話がありました。余芳の整備の中で、看板整備も含めて検討を進めています。整備の看板と今回の看板との位置づけを考えながら、どのサイズの看板がいいのか検討したいと考えています。 また、外に出た鉄門も今は欄外になっています。西側の、外堀に出るところについては、うちが所管しているところではないので、所管のところと一度、今回の全体的な考え方も含めて説明し、調整を進めていきたいと考えています。 それ以外の東門のところに枡形があった話や、東南隅櫓の内堀の外側から見られるようになっているところについては、また検討したいと思います。
麓構成員	今の回答の中で一つだけ不満なのは、石垣は1か所の説明板があるからいいです、ということではないです。それぞれの代表的な石垣の、この面は、この時期で、こういう積み方をしているということが、実際に石垣を見ながらわかるようにしてほしいです。堀の外側からでもいいですけど。この時期の石垣は、こういう積み方です。というのを、城内の各所に設けたほうがいいのではないですか、とお話したんですけど。
事務局	承知しました。ご意見として受け止めます。今回看板を、できる限り景観を阻害しないようにという中で、看板の数をできる限り減らしていきたいという感覚で、臨時看板も数を減らすようなかたちで考えています。数等については、検討させていただきたいと思います。
麓構成員	これだけで議論をして、数をできるだけ減らすというよりも、そもそも名古屋城として、何を情報発信しないといけないのか。石垣について、ここに1か所あれば、それで十分と思われたら、それは不足しています。だから、もっと増やしたほうがいいのではないですか、ということをお話しています。数が増えるから、景観を阻害するから減らすというのは、私がお話した趣旨から離れているというか、意図を理解していないとしか、いいようがないです。ぜひ、設置してください、ということをお話しています。
事務局	申し訳ありませんでした。石垣の時期によって、解説によって、観覧者の方の見方も変わってくると思います。先生のご指摘をふまえて検討したいと思います。貴重なご意見をありがとうございました。

瀬口座長	ほかには、どうでしょうか。
三浦構成員	案内板の追加で、エリアの解説板です。大手馬出と搦手馬出と塩蔵構という、重要な曲輪名がないのがおかしいです。少なくとも１つの曲輪に１つずつエリアの解説板があるといいと思います。名古屋城の特徴は、大手馬出、搦手馬出は、名古屋城のトップに挙がる非常に重要なものです。今工事している塩蔵構。この３つが欠けていますので、ぜひとも加えていただきたいと思います。
事務局	検討します。
瀬口座長	ほかには、よろしいですか。 先ほどのところで、ちょっというのを忘れました。ボーリング調査は現状変更が必要なので、先ほどの計画案で、特に大きな修正意見がなかったと思います。現状変更許可取得に向けた手続きを進めていただきたいということで、よろしいですね。 今のところについては、結構皆さん、位置など、内容はともかく、まずは現状変更に関わるので。数が増えたりすると現状変更に、増えても関係はないのですか。ありますよね。そうすると、もう一回諮ることになりますよね。
事務局	実際には、こちらの資料の２ページで、６年度に本丸、西之丸エリアを、７年度に二之丸、御深井丸エリアを行うことを書いてあります。細かいところは７年度にまわすこともできるところもあるかと思います。長期的な部分も含めて検討させていただき、本丸、西之丸エリアの現状変更案は、進めさせていただきたいと思います。
瀬口座長	本丸、西之丸エリアについて、いろいろな意見が出て、場所についても増えたりするわけです。確定していないという認識なのか、だいたいでいいのか、文化庁に、ということなのです。
事務局	いただいたご意見の中で、検討するとお答えした部分は、６年度にすぐ結論が出るとは思っていません。７年度に含めて考えさせていただきたいと思っています。
瀬口座長	お聞きしているのは、現状変更の手続きを進めてください、と今日はいわなくて、次回にもう１回検討します、ということでよろしいですか。それをお聞きしているんですけど。
事務局	増やしたりですとか、基本的に今回お示ししているものの位置については、このかたちでいいのかな、というご意見をいただいたと考えています。ただ、重要な石垣や東南隅櫓、主要な曲輪などの看板を、しっかり必要なものを考えて、どこに配置するのかの検討は、これからスタートしていけたらと考えています。そちらについては、７年度のときに、検討したものをあわせて見ていただけるように考えています。解説看板については、今回灰色になっているところが、７年度に施工しようと考えているところです。白抜きになっているところの解説看板については、このかたちで現状

	変更許可申請を進めていきたいと考えています。 ただ、次のページの青色の誘導案内看板については、構造を含めて検討が必要だと認識しています。こちらについては、引き続き検討を進めていきたいと考えています。
瀬口座長	1ページのグレーのところが、今年度といいましたか。
事務局	グレーのところが来年度です。
瀬口座長	来年度。先ほど意見が出たところは、グレーではないところもありましたね。白いところでも。
事務局	そちらについては、グレーのところとあわせて、不足しているところについては、来年度に追加で設置することで進めていきたいと思います。
瀬口座長	2段階に分けて現状変更を申請することにして、今回出たところではっきりしているところについては、現状変更の手続きを進める。2年度にわたっている残りのものについては改めて、今日の2ページのところでは、場所で分けています。本丸および西之丸、令和7年度、2025年は二之丸、御深井丸となっていますけど、それにこだわらないで、重複するところがあるという状態のもとで、現状変更手続きを進めていくということで、いいですか。 委員の皆さん、特に意見がないようなので、それで進めていただき、残りについてはまた次回以降に出していただくということで、お願いしたいと思います。
事務局	1つだけ、今の看板について、置き式のタイプのものになります。文化財保護課と調整していく中で、市の現状変更許可を申請することで、今調整進めています。
瀬口座長	文化庁ではなくて、市のほうですか。
事務局	はい、そうです。
瀬口座長	そういうことだそうです。
文化財保護課	中身も含めて調整を進めたいということです。設置型のものであれば市で、全体の部分で、ご相談したうえで進めたいと思います。
瀬口座長	ここのメモで区別してください。市のほうと、文化庁のほうと。よろしくお願いします。 それでは次に、議事（6）名古屋城外堀周辺の園路等の改修についてです。説明をお願いします。
	（6）名古屋城外堀周辺の園路等の改修について
緑地事業課	緑政土木局緑地事業課からご説明します。史跡の周辺、公園として管理

	している区域が中心となっています。こちらは、緑政土木局で維持管理をしているところです。一帯は、主に昭和の年代に整備された施設等があります。皆様ご承知のとおり、愛知県新体育館が移転整備されることを契機に、名古屋城だけではなくて、公園を再生させてエリア全体として魅力の高い場所にしていこうという取り組みを、市を挙げて進めています。そのうちで、緑政土木局では名城公園、北園とよく呼ばれますが、こういったところを中心に再整備に取り掛かっています。 本日は、史跡に近いところの一部で、特別史跡エリアのところがあります。こちらの改修の計画について、ご説明し、現状変更等を進めていきたいと思います。 それと、先ほど植栽の話が出ましたが、植栽の取り扱いについても、この整備の中で植栽を触っていきたい考えをもっています。これまでお堀に対して、柵がありました。四ツ目垣やカラタチの植栽など、今の時代にはそぐわないのかなということと、維持管理をしていくうえで持続性のあるものにしていきたいと考えています。どちらかというと機能面を重視してきましたが、もっと積極的に御城を見ていただきたい。天守閣はもちろん、堀も名古屋城の大変な魅力だと思います。見ていただける、そういった周辺環境整備をしていこうということで、取り組みを始めています。 図1をご覧ください。そういったエリアとして、図示しました。第1期整備と書いてあるのが、愛知県新体育館で、令和8年にアジア大会行われます。これまでの間に、この第1期については、今年度、さらには来年度と続けて整備を順次進めていきたいと考えています。 本日は、ちょうど真ん中のところにある特別史跡の範囲の計画、それから堀沿いの柵を、新しい柵を設けていきたいと考えています。この2点についてご説明します。よろしくお願いします。 詳細は、課長補佐からご説明します。
緑地事業課	まず、1の内容です。図1の赤色で塗りつぶしている範囲において、名古屋城の魅力を図るために、園路改修を進めていきたいと考えています。 (2) に整備方針案をお示ししています。以下の4点です。1つ目に、天守閣等への視点場の確保を行っていきたい。2つ目に、既存の掘削ラインから新たに掘削を行わない。3つ目に、過密な植樹帯を整理し、明るく見通しのよい空間を整備する。4つ目に、園路のバリアフリー化を行っていく。こういったことを考えています。 (3) に今後の予定をお示ししています。令和7年1月までに設計内容を固め、来年度に向けた発注準備を進めていきたいと考えています。その後、工事については、令和7年7月頃に着手し、令和8年3月を目途に工事の完了を行っていきたいと考えています。 2ページ目をご覧ください。(4) 計画平面図です。園路沿いからの天守閣や石垣への眺望確保のため、視点場の整備を行います。また、安全に柵に近づき柵に寄りかかれるよう、転落防止柵で更新を行う。また、明るく見通しのよい植樹帯へ整備をする。また、利用者を外堀沿いに引き込めるように、園路のバリアフリー化を行っていく計画をしています。 参考資料として、3ページをご覧ください。(7) 現況樹木整理計画図として、(8) に現況写真をまとめています。2ページの計画平面図と対にして、ご覧ください。 まず (7) 現況・樹木整理計画図をご説明します。主要な樹木において、撤去樹木については赤色で、保全樹木については緑色で表現しています。

	現状は、右側の（8）の写真のとおり、樹木が茂って見通しが悪く、また薄暗く近寄りがたい印象になっています。そのため、視点場から水堀沿いの樹木については、樹木撤去を地際から行っていきます。そのほかについては、明るくて見通しのよい植樹帯に整備し、ケヤキ並木やソメイヨシノの健全化を図りたいと考えています。 2ページ目をご覧ください。（5）に横断面図を作成しています。左側の図2の断面図位置における現況図と、計画図を作成したものです。前回整備の、既存の掘削ラインから新たに掘削は行わず、現状段差が付いている2つの園路部分を、利用しやすい平坦な園路への改修を計画しています。 （6）に整備イメージとして、図5大津通の歩道から公園内側のほうを見た整備イメージを作成しています。写真1については、左側の図2の撮影位置における天守閣方向を写した現況写真です。眺望のよい外堀、水堀沿い園路の魅力を高めて、利用者の方に名古屋城をより親しんでもらえるよう、改修を進めていきたいと考えています。 4ページ目をご覧ください。3番の外堀周辺の柵の改修についてです。 （1）概要です。外堀沿いには、四ツ目垣や格子柵が設置されていますが、老朽化が著しくなっています。今後、柵に安全に人が寄りつけ、外堀などの景観の向上ができるよう、統一的なデザインで改修を行っていきます。また、先ほどご説明した特別史跡範囲についても、統一して設置を進めていきたいと考えています。 （2）現状の課題です。四ツ目垣とカラタチは、転落防止の機能を果しておらず、さらには眺望を阻害しており、景観の悪化の原因になっています。 （3）に外堀沿いの柵の現況写真を付けています。 （4）に整備方針案をお示ししています。柵について、1つ目に、石垣や外堀等の眺望を阻害しないシンプルな意匠。2つ目に、維持管理面も考慮した金属製の安全な、高さ1.1mの転落防止柵への改修を考えています。 右側の（5）に新しい柵の計画の案をお示ししています。笠木に再生木材を用い、人の寄り付きやすさを考慮しました。また、細いアルミ材の縦格子により、安全な利用や、背面への視認性の高いものを検討しており、こういったシンプルなデザインについて、選定の理由としています。 （6）柵の設置箇所です。外掘り沿いの赤色や緑色、灰色の矢印の場所に現状の柵が設置されています。今回の議事については、特別史跡の赤色の部分になります。また、関連して具体的な整備計画については、緑色で着色しています。 （7）今後の予定です。外掘周辺では、令和6年度に藤の回廊の公園施設の改修を予定しています。この部分についてまず、早期の改善を図っていきたいと考えており、まずはこの区間の柵の更新に着手したいと考えています。なお、二之丸東の藤の回廊北側の特別史跡部分と、名古屋城駅前の噴水のある広場については、令和7年度に柵の更新を行っていきたいと考えています。 説明は以上となります。
瀬口座長	今のご説明に対して、ご意見、ご質問をお願いします。
麓構成員	2ページの図で、天守閣や石垣への視点場の整備と書いてあるところがあります。眺望がいいから樹木を伐採したり、というようなことだと思います。先ほど、堀の外側にも案内板があったほうがいいのではないかとお

	話したのは、こういう周囲の視点場になるようなところに、ただ堀の向こうに天守が見えますということだけではなく、かつて二之丸があって、二之丸の奥には本丸があって、ここから見たときは、それがどのようなものであったのか。そんなようなものも含めた解説があると、いいなと思ったんですけどね。
緑地事業課	先ほどのサインのところとの調和も含めて、調整させていただきます。
瀬口座長	ほかには、どうでしょうか。
丸山副座長	先ほど、植栽管理計画の話がありました。ここは将来的には、バッファーとして、お城周辺の緑政土木局が担当されているものと、連動しながら植栽管理をしたらいいと思います。ただ、計画はかなり大胆な計画をされています。特別史跡の範囲も盛土しながら、いらない木を切ると。全部切ってしまって、まるまるお城を見せるというのも、芸がないと思います。樹間から見るお城というのは、そういう演出もするべきかなと思います。 ここを見ていると、特に特別史跡というのは、これだけの盛土をすることが許されるのかわからないですけど。もう少し、丁寧っていったらいけないですけど、柵をやって転落防止をするだけではなくて、もう少し修景というか、園路等の改修ではなくて、園路等の修景計画として、もう少し樹木や現況のところで単に見せるだけではなくて、見せるところは見せるところで工夫されたらいいですけども。もう少し南のほうだと、あのエリアを剪定するというのは、本来ならあのエリアではなくて、ほかの生垣のところですね。カラタチもあるし、在来といいますか。そういうものの植え方です。自然樹形があるものを無理に切ってしまうために、余計におかしくなっているというところもあるので。そういう部分も含めてこちら側の、特別史跡のエリアだけではなくて、もう少し盛土をするのがいいのかどうかなども再検討して、どういう空間を演出するのか考えてほしいです。 先ほど麓先生がいわれたように、まわりから見たときにお城の解説がほとんどないので。そういう場としても、どういうところがいいのかとか、ということも検討していただきながら、このお城全体のバッファーとして、名城公園のところからの眺めもいいと思いますけど。今回のエリアには入っていないですけど、考えてもらいたいと思います。
瀬口座長	ほかには、どうでしょうか。
赤羽構成員	愛知県の新体育館が、発掘調査の成果であったり、あるいは過去にわかっている文字資料や絵図ですね。そういうのを見ると、名城北公園というのは、名古屋城と切っても切れない関係にある重要な場所だということがわかってきています。園路だけの話ではなくて、これからこの北公園をどうするのかということも、ぜひ考えていただきたいと思います。 ちょっとお尋ねしたいです。現在この北公園は、埋蔵文化財包蔵地として認定されていますか。協議会に聞いた方がいいかもしれませんが。埋蔵文化財包蔵地として認定されているのかどうか。されているのであれば、今回のような改修工事に、どのように取り組んでいくのか。もし、埋蔵文化財包蔵地として認定されていないのなら、これからどのような方法で対応していくのか。ということをお尋ねしたいです。

文化財保護課	当該の指定については、現在、周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されていません。ただ、かねてよりこちらの土地については、歴史性を重視し、埋蔵文化財包蔵地に指定されていないものの、それに準じた取り扱いをしており、事前に調査をしていただき、工事内容その他についても調整を行っているところです。今後については、周知の埋蔵文化財包蔵地に指定する方向で検討を進めていきたいと考えています。
瀬口座長	今回の議題は、調整したあとですね。どのような調整をしたのか説明をしてください。
文化財保護課	今回提案されている緑地の部分についてのお尋ねということで、よかったでしょうか。
瀬口座長	名城公園の北園のことです。
文化財保護課	はい。北園側ですが、現在緑地事業課さんのほうで整備を進められています。ラインが引いてある北側を中心に整備を進めています。計画の図面をいただき、もともとお庭の跡のところで取り合いと位置関係を確認したうえで、必要なところでは工事の際に立ち会っています。大きな工事の場合には、先行して試掘調査等を行い、部分の確認をしています。施工にあたって、工事に立ち会うなどの対応をしています。
瀬口座長	庭園の境界が、第１期工事の南側でよろしかったですか。図１の。調整をされたんですよね。
緑地事業課	第１期と書いてあるところは、あくまで私どもがどう整備をするかというところです。この先、第１期以外の南のエリアも整備をしていきます。その中で、ここが名古屋城の大事な場所だった。南御深井御庭で、池があったということは承知しています。 一方で、現実問題として市民の利用が多い公園です。現状として、今後どういう方向性でいくかということは、まず文化財が埋蔵されている、保存されているということは基本です。それを脅かすような、大規模に土地を掘り下げていくようなことは考えていません。一方で、今の市民利用のところは担保していきたい、特にランナーの皆さん、歩く方、子どもの遊び場などといった機能は、公園局としてはこのまま続けていきたいと考えています。しかしながら、特に名古屋城に接する、この図面ですと、名古屋城の南交差点というのがあり、ここに東西の道路が走っています。この道路よりも南側は、特にお城とのつながりが現状として強い場所です。本来は北側も含めてだと思いますけど、私どもの今の考えでは、道路より北については機能を優先させる。それよりも南については、水堀や、先ほど資料がありましたが、よりお城との一体感、文化財をどう活用するかということを含めて、今後検討していきたいと思っています。 この会議で、さまざまなご意見をいただけると思っています。現状としては、工事の内容がある程度決まっているのが、この第１期のエリアで、ほぼ確定しており、方向性としてはこの案で行っていきたいと思っています。第１期以外のエリアについては、今後各方面のご意見をいただきなが

	ら、最終的に整備をしていきたいと思っているところです。
瀬口座長	第1期が確定しているということですので、文化財保護課としては、どういう調整をしたのですか、とさっきお尋ねをしたんです。それを是としているのですか。調整した結果。
文化財保護課	第1期の作業中のところだと、具体的に中央だと建造物があったり、撤去するものなど図面でいただいています。それが影響があるのかということを確認しながら、調整を進めているところです。
瀬口座長	文化財保護課では、埋蔵文化財包蔵地として指定しようとしているわけですよね。ここを。前に、村木さんがいたときに、ここを発掘調査しましたよね。体育館との境界のところ。
文化財保護課	しています。
瀬口座長	しましたよね。その結果、ほぼここのところまで庭園がきていました。それは、はっきりしているわけです。
文化財保護課	はい。
瀬口座長	茶屋か何かがあったのではないですか。
文化財保護課	愛知県体育館の建設のときに発掘調査を行い、お茶屋の裏手のところまで遺構を確認しています。その深さも含めて確認をしています。それに合わせて今、対応していこうと思っています。
瀬口座長	そうすると、将来ここをどうするのかというのは、緑政土木局だけではなく、観光文化交流局と両方が話し合って、どうするのかという基本方針を作ったほうがいいのではないですか。緑政土木局だと、現在の利用を優先するわけですから。名古屋城の史跡としての価値となれば、ここを庭園として将来、30年先か、50年先か知りませんけども、こうしていくという方針が必要だと思います。 1回整備してしまうと、30年か50年は変わりませんよね。それは、ここを整備する前に、市民も含めていろいろご意見をもらったほうがいいのかなと思いました。ここに関しては次回以降、また出してもらいたいですが、よろしいですか。
緑地事業課	補足させてください。先ほどお話した、公園の南交差点から東西の北の部分については、市議会にすでに名城公園北園の再生についての、方向性、基本計画を説明してそれに従って進めていくということが、実際のところあります。そこに歴史、文化が書かれていないわけではないですが、総合公園としてのいろいろな機能を果たす。自然環境もそうですし、クリエーション、防災の機能などが発揮できるような、そういった方向で進めているところです。
瀬口座長	立場上はわかります。そういう話を出される以前から、ここの下御深井

	御庭については、全体整備検討会議で議論になっていました。緑政土木局はそうかもしれないけど、ここでは議論させていただくことにさせてもらったほうが、いいのではないかと思います。総合事務所は、どうですか。
事務局	今の現状は、文化財保護課長からもお話があったとおり、文化財包蔵地に指定されていません。 当然、私ども、この会議でも下御深井御庭は名古屋城の貴重な御庭なので、そういう文化財があったという史実のもと、という認識はあります。現状としては、先ほど緑政土木局が説明がありましたが、公園利用されている、文化財包蔵地の指定がない状態です。 名古屋城としては、まず文化財包蔵地の指定をもとにして、それがスタートだというスタンスで考えていました。
瀬口座長	わかりました。それでは、文化財保護課はいつ指定する予定ですか。10年先ですか。
文化財保護課	取りかかりたいと考えているところです。手続き上、まず私どもの保存機関である文化財調査委員会の史跡埋蔵文化財部会に諮ったうえで、愛知県のほうへ申請させていただくという手順を踏む必要があります。まずはそこからスタートしたいと考えています。
瀬口座長	どのくらい時間がかかりますか。
文化財保護課	年度内までにはと考えていますが、調査委員会との調整もありますので、あと愛知県さんのほうがどのように動かれるかというのもあります。そのあたりについては、読めないところがあります。
瀬口座長	相手がいるんですね。2024年度内に目標として、2025年度にもできれば、公園利用のほうも、そのことを前提に整備していただけるので。それを指定しないと、総合事務所のほうでは動けないという話なので、早めにしてください。それで全体として、名古屋市として史跡の部分をどうするのか、結論をだしてほしいと思います。
赤羽構成員	それぞれの立場というものがありますから。名古屋市として取り組むのであれば、緑政土木さん、名古屋城の事務所さん、教育委員会の文化財保護課の3者が一緒になって、これからどうするのかということを、ぜひ考えてもらいたいです。この部分をないがしろにすると、名古屋市は何をやっているんだ、ということが問われますよ。ぜひ3者、県も必要ならば交えて、これからずっと知恵をだしあって行っていただきたいと思います。
瀬口座長	愛知県文化財の岡田さん、ひと言お願いします。
岡田オブザーバー	今、こういったような全体会議でもって、文化財包蔵地についてそういった方向で考えていることは、十分承知をしています。私どももこういった席に出席していますので、今までの流れは承知したうえで、名古屋市さんの申請をふまえ、取り組んでいきたいと思います。

瀬口座長	よろしくお願いします。それでは、三の丸、こちらのほうに戻ってよろしいですか。ほかに意見がなければ、私のほうから。ここは、特別史跡になっていますよね。今赤く塗ってあるところです。これはなぜ、特別史跡にしてあるのですか。文化財保護課、お願いします。
文化財保護課	そちらは、もともと門があったところにあたります。門があったところが史跡として指定されているところだと思っています。緑地事業課さんの資料にもあるように、昭和 48 年に外側のところで、全体に改修が入っています。今ご相談するところは、これから文化庁さんのほうへご相談するところです。今図面で指しているところで、昭和 48 年に削平などがあり、旧状をかなり保っていない部分になります。その削りしろのところに影響ないように、今緑地事業課さんのほうで計画されています。そこの部分について、現状変更に向けて調整をしていきたいと考えています。
瀬口座長	門というと建造物だと思ってしまいますけど、枡形でしょうか。
文化財保護課	はい、そのとおりです。
瀬口座長	枡形だとすると、枡形がここにあったんだというところが、どの範囲かということをまず示して、ここに資料として出してほしいと思います。枡形が、この赤いところに、大津通ですか。ここの道路にかかっていると思いますけど、枡形って結構大きいです。従って、枡形の西側のところがかかっている可能性があります。そのものと、ここの整備との関連が、今日の説明では全然ありませんでした。文化財の特別史跡をいろいろいじるというか、掘らないという前提ですが、現状変更するにあたって資料が不足していると思います。教育委員会のほうからもう少し出さないと、緑政土木のほうは対応できないと思います。それをふまえたうえで、今後の整備をしていく。そうすると先ほどの看板も、それを含めた説明ができることになるので、歴史的な風致が向上するという方向になると思います。この件は、12 月の 10 何日に次回がありますので、再度検討されて全体整備検討会議に報告していただくということで、よろしいですか。
緑地事業課	はい。もう 1 点の柵のほうは、実は急いでいまして。この史跡のエリアではないですが、今柵がない状態の箇所があります。できましたら今年度の予算を使って、今ご説明した藤の回廊のところですけども。このデザイン、経済性も含めてこれを選んでいます。特に問題がないのではないかということをいただけたら、進めていきたいと思っています。
瀬口座長	今提案がありましたが、史跡の範囲の南側のところですね。主に。この手すりについては、本日の提案で、先ほどいくつかあったように思いますけど、それを考慮して現状変更を、ここに関しては必要な手続きを進めていく。これは市ですよね。
緑地事業課	この場所の現状変更は、特に必要ないです。
瀬口座長	そういうことでありますので、わかりました。現状変更の手続きは今のいわれた部分は、現状変更が必要ないので、この案でよろしいですか。特

	にご意見はありませんか。基本的には木を使わない方法で、柵を作るんですね。
緑政事業課	はい。
瀬口座長	よろしいですか。
三浦構成員	次回、詳しく資料を出していただけると思いますが。ここは、清水御門枡形です。元禄の図と、金城温古録のところに絵が描いてありますから、古絵図等もあわせて次回の委員会にだしていただきたいと思います。よろしくお願いします。
瀬口座長	枡形のところについては、そういう資料をあわせて出してください。先ほどのところについては現状変更がないので、先ほどの皆様のご意見を参考にして進めていただく、ということにさせていただきたいと思います。 本日、一応議題を一通り見ましたので、文化庁の渋谷調査官から、お三方にご意見を伺いたいと思います。渋谷調査官さん、よろしくお願いします。
渋谷オブザーバー	本日はいろいろ議題があり、ご審議いただきありがとうございました。従来から議論されている水堀関連遺構、水堀関連ということで発掘調査の報告もありましたが、いろいろ新事実がでてきたということ。水堀の運用については、おおまかな設計はできつつあるところですが、まだ議論に出てきたように運用等のほうも考えて、実際に動かしたところから、そのサイズ感でいいのかどうかも、今後検討していただくようなかたちになると思います。特別史跡名古屋城跡の魅力発信の一つとして、引き続き検討いただきたいと思っています。 また、いくつかの、大きくご意見がありましたサイン計画、看板のほうも全体的なところをもう一度考え直していただきたいと思います。個人的に少し思ったのと、画面を拝見して思ったことが、室内でのサインと屋外でのサインの考え方は、少し違うのではないかと思いました。よく博物館、美術館では統一的なフォーマットでパネル等を作っていますけども、屋外で、実物の大きさがそれぞれ違ったり、見え方等も違ったりするので、そのあたりも大きさ等、統一的にとなっていますが、その中で見え方なども検討材料としていただきたいという感想を抱きました。いずれにしても名古屋城は、今までどちらかというと本丸周辺のお話が多かったですが、今回外堀周辺の園路というかたちで、全体広く整備の計画等がでています。話題にでているように、アジア大会の前にいろいろするべきことが挙がってきているかと思います。何が大切かをふまえながら、引き続き事業を進めていただけたらと思っています。 本日も、先生方には多数ご意見をいただき、ありがとうございました。
瀬口座長	ありがとうございました。平澤調査官さん、よろしくお願いします。
平澤オブザーバー	今日の会議で２つ、印象に残ったお話をしたいと思います。１つは、サイン計画の件です。いろいろご意見が出て、十分なものとは思えない状態だと思います。先ほど三浦先生が、ここにサインがあると、ここから写真

	を撮りたいという、名古屋城に来たらここで写真を撮ると決めているような場所というのがあったりすると思います。結局サインというのは、現地に来て本当にその場所にいるわけで、今の写真の例でいうと、邪魔になるわけです。サインの本来の機能は、現地での体験をより良い方向に修飾することだと思います。そこで、どういう体験を利用者側が修飾しようとしているのかということを、この事業を進めていく前に、改めて考えていただければと思います。現地での情報の不足というのは、案内看板や解説板だけではなくて、パンフレットのような資料もありますし、西之丸の展示とかとあわせて、その他、さっきQRコードの話もありましたけども。最近は、外国人観光客などはほとんどすべて、自前のデバイスを持っているわけですから。さまざまな媒体とあわせて、現地で活かした体験をいろいろなかたちで選択ができるような修飾の方法を、事業者側が何をそこで、こういうことを伝えたいなということが、もっと事業を進める中で得られたらいいかと思います。 　もう1つは、特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議ではありますが、特別史跡の範囲だけを考えればいいのか、そうではないという、当然そういう話でもあるわけですけども。資料3で、今回植栽管理計画で管理区分の図があります。今ここに書かれている、名古屋市公館は、三の丸の外堀の内側の、資料 3 の図でいうと、緑色の右下の隅の内側にあたりますけども、三の丸の外堀のところは、非常に都市の中で豊かな緑地を成しているところがあります。これも、先ほどの二之丸の東面や南面の堀の取り扱いといいますか。それをきちんと考えていく必要があると思います。名古屋城の大きな広がりや、構造を実感するという意味で、ちゃんと城の縄張りが広がっているということを、どうやって伝えていくのか。それをどうやって見せていくのか、ということもあるかと思います。広くは、先ほどの議論にもありましたけども、観光文化交流局のみならず、教育委員会や緑政土木局も含めて、名古屋市のいろいろな意味で重要なこのエリアのあり方を、名古屋城という歴史的な一つの現象というか、そういうことを現代、将来の社会にどういうようなかたちで形成、創造していくのか。そういう総合的な議論が常にされる中で、それぞれの、法律上の取り扱いがありますから、特別史跡をどうするのか。特別史跡の名古屋城跡に関しては、未告示の部分もあります。さらに、新しい知見をもって、保存活用する範囲を追加していくのか、していかないのか。そういうのも含めて継続的に検討していただければと思います。特別史跡の範囲に限らない名古屋城というのを、どうやって考えるのかということも検討できるような場に、この会議がなればいいのではないかと思いました。
瀬口座長	ありがとうございました。それでは県の岡田さん、お願いします。
岡田オブザーバー	本日も活発なご意見をありがとうございました。さまざまな重要な難しい問題があります。重要文化財建造物等保存活用計画の策定については、ボーリング調査についてのお話が主でしたけども、ボーリング調査の計画と策定が同時並行で進められていることや、サインのほうですが、資料の令和6年度と7年度の区分けに関わらず、一部は7年に追加して行うという話があったかと思います。そうしたことで、私も県の事務方の一員として、スケジュール的にはタイトなところもでてくるのではないかと感じました。名古屋市さんについては体制もしっかりしておられるので、早期の計画策定や整備に向けて努力されていると思いますので、適切に進めて

	いただければと思います。 　さっきお話のありました、名古屋城の北側の庭園部分は、まず文化財包蔵地に指定していただいて。日頃から名古屋市さんには、いろいろ手続きの面で協力していただいていますし、本件についても、もし包蔵地の指定になりましたら、市と協力して事業を進めていけると考えています。
瀬口座長	ありがとうございました。以上をもちまして、本日の議事を終了いたします。進行を事務局へお返しします。
事務局	瀬口座長、進行をありがとうございました。本日は議事が多く、タイトなスケジュールでしたが、無事議題を進めて終えることができました。ありがとうございます。本日、さまざまなご意見がいただきました。今後改めて議事として取り扱う議題もありますので、今日いただいた意見をふまえて、整備や検討を進めていきたいと思います。本日予定していた内容は以上となります。以上をもちまして、本日の全体整備検討会議を終了します。長時間にわたり、ありがとうございました。